今月のテーマは・・・「終戦80年に想うこと」

平和希求の私たちの思いとは裏腹に、世界は逆行していて不安を覚えます。人間の賢さはどこに行ってしまったのでしょうか？身近に自分でできることは何があるかを考えながら、実行していきたいと思います。

七戸町　R・Aさん

日本での戦争が終って80年も経つのですね。毎年、戦争の話を聞く度にこの先もずっと戦争が起きないようにと願うばかりです。世界ではまだ戦争が起きています。命を奪い、辛い毎日を送っている戦地のニュースを見ると胸が痛みます。日本は唯一の被爆国であり、大切な命がたくさん奪われた地。私も母も戦争を実際に経験していませんが、これからの世代にも平和をつなげていければと思います。絶対忘れてはいけないと思います。

八戸市　Y・Kさん

となりに住んでいる90代後半のおじいちゃんは、物腰のやさしい他のおじいちゃん達と何ら変わらない方です。只ひとつ違うのは、「満州の戦地にて受けた鉄砲の玉が、未だ体の中に入っている」という事です。今年『終戦80年』ですが、おじいちゃんにとっては、戦中なのかもしれません。

八戸市　N・Kさん

戦争のない時代に生まれた私は幸せですね。あってはならない世の中でありたいものですね…こう言う事もあったんだ！とわすれてはならないですよね☆

佐井村　チュ～ザブロウさん

八戸空襲のことを初めて知りました。「たんさく」にあった慰霊碑に行ってみたいと思います。三沢、八戸にも自衛隊基地があり、隊員の皆さんが日頃頑張っていらっしゃることを思う時、いつまでも平和が守られるように祈ります。

三沢市の組合員さん

終戦が80年になったということですが、まだまだ世界のあちこちで戦争がおきてますね。どうして人は仲良くなれないのでしょうか。欲のありすぎ、人のいいものを自分のものにみならうことができず、うばうことだけ。どうしてこのような人間が多くなってしまったのでしょうか。

むつ市　E・Mさん

毎年繰返し終戦を語りますが、世界は逆の方向に向っています。ペリリュー島で遺骨を収めているニュースが先日ありました。どうして人間は戦争をなくせないのでしょうか。ピースアクションの玉木利枝子さんの凛としたお姿に伝えなくてはの姿勢が強くあらわれています。

新郷村　N・Sさん

ウクライナをはじめ、世界各地での戦争や紛争のニュースを毎日目にします。その度に、1日でも早く終結するように！と思います。戦争の時代に逆戻りしたくはありません。世界中が平和になり、1人1人が安心安全に過ごせるようになってほしいです。

八戸市　W・Sさん

激戦地ペリリュー島

N・Sさんの投稿にあるペリリュー島は、日本から約3000㎞離れたフィリピンの東側にあるパラオ共和国に属する島です。

ペリリュー島のあるパラオは、16世紀にスペイン帝国の植民地になった後、19世紀末にドイツ帝国に売却され、1919年に終結した第一次世界大戦後、戦後処理として行われたパリ講和会議でドイツ帝国の植民地から大日本帝国の委任統治領（実質的な植民地）になります。

日本統治以降、電気や水道、学校や病院、道路や公的施設など社会的基盤の整備、貨幣経済への移行といった取り組みがなされ近代化が進みます。

ペリリューの戦いは、太平洋戦争勃発後の1944年9月15日～11月27日に日本軍守備隊とアメリカ軍の陸上での戦闘です。

アメリカ軍は4日での終結を予想していましたが、2ヶ月以上の持久戦となり、日本軍の戦死者が約1万名以上、アメリカ軍も約1，600～2，300名また、アメリカ軍では病死した軍人が数千名（5，000～10，000名以上と様々な説がある）という悲惨な戦いです。悲惨な戦いは硫黄島の戦いに続いてきます

民間人は事前に避難させていたことから、民間人の死者はいませんでした。

現在も慰霊祭が行われる他、ペリリュー島では遺骨の収集などが行われています。

とにかく平和を願います。

八戸市の組合員さん

はばたき6月号のたんさくの記事を読み、初めて八戸空襲のことを知りました。私の父は、終戦の翌年に生まれていて、終戦は40代の私にとっては、父の年齢を思い浮かべます。

私が生まれた日は、戦時中は長崎の原爆があった日なので、毎年ニュースで式典の様子を見ると、戦争や原爆は二度と起きてはいけないと思います。実際は、戦時中の生活や空襲などの被害については、知らない事だらけです。時が過ぎ、平和で生活が豊かになった現在ですが、戦争があり、多くの犠牲者が出たこと、多くの被害があったことなど当時の状況を多くの世代の人々が知り、語り継いで教訓とし、今も戦争をしている国々がありますが、戦争や核爆弾のない平和な世界が続いてほしいと願います。

青森市　S・Nさん

80年て長いのかな？短いのかな？私は現在61才。80才位で人生の終わりを迎えるとするなら残りはあと20年位…あっという間に感じる。そう考えると80年は短い気がする。でも、想い出を振り返ってみると色々な出来事が沢山詰まっていて、60年でも長いと感じたりもする。人生の大半を戦争体験をせずに生きてこれたのは、戦争を体験した方々の忍耐と努力によって賜ったものなのだと感謝しなくてはいけないと思う。さて、平和な80年を享受させてもらえた私達は、次の世代の為に何をしてきただろうか？これから何をしてあげられるだろうか？この機会にもう一度考え直してみたいと思う。戦争を起こさせない為には、やはり政治に関心を持つ事が大事だと思っています。

五戸町　H・Kさん

私の長兄は赤紙で召集されました。出征する時乳児の私（1942年［昭和17年］生まれ）を抱いて「ケンが小学校に上がる頃には帰ってくるからな」と言ったそうです。沖縄で玉砕です。武器が無く、竹やりで敵の機関銃に向かったのでしょうか。2012年に妻と沖縄へ行きました。糸満市にある石碑「平和の礎（いしじ）」へ。平和の礎、沖縄戦などで亡くなったすべての人を追悼し、悲惨な戦争の教訓を後世に正しく伝えて行くために建設されました。左右に見える刻銘碑には、戦没者の名前が彫られています。戦争はあってはなりません。

つがる市　K・Eさん

お世話になっております。この度の特集のテーマを見て、3歳から4歳にかけて遭遇した戦中戦後の朧気ながら悲しく辛い体験の一部を紹介したく、慣れない文をしたためてみました。めったに使わないパソコンもまた、めちゃくちゃで申し訳なく恥ずかしいところです。ご査収下さい。

○命の岐路を知った

1945年8月、父は満州で終戦を迎え、よろよろと帰還した。爆発する歓喜に包まれた母の姿が、4歳の記憶に焼き付いている。23年後、結婚した自分の夫の父が戦死したことも知った。私の父も家族も、みんながたとえようもない混沌とした中で過ごした時代がその後も続いたが、今84歳の自分は生きられている。二人の父、決して忘れることのないあなた方を、今日も節目に讃えずにはおられないのです。

青森市の組合員さん